



見沼のほとり

第 11 号
令和7年1月31日

学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 《意欲・健康・豊かな心》

物を大切にすることとは

校長 金子 慎一郎

先日、本校の技術・家庭科の先生と最近の中学生は道具の名前を知らない。また物を大切に使用しない生徒が多くなったと話をしました。そこで原因は何かと考えてみました。これだけ物があふれかえり、100円均一のように安くて良い物が手に入るようになった現代においては、「物を大切にすること」ということはかえって難しいのかもしれませんが。なぜなら、私が子供のころの50年前とは違って物が壊れても困らないからです。最近は物が壊れたら捨てて、新しい物を手に入れることが当たり前のようになっていますので、壊れた物を修理し、1つの物を長く大切に使う事を疎かにしているように思えます。社会経済を動かす視点からは、物を大切に使い続けることは問題になるかもしれませんが、心を育てる教育の視点からは、やはり子供たちには物を大切にすることの意味を理解して身に付けて欲しいと思います。しかし、子どもたちには「物を大切にしましょう」と言ってもなかなかわかりません。それは物を使う側の人は、物を作る人の苦労や思いを目で見て感じ取ることができないことが多く、物に対しての思い入れが薄いのだと思われます。ですから、必然的に物を大切に使う事の意義を見出すことが難しくなると思うのです。

では、物を大切にすることはどういうことでしょうか？「物を大切にすること」とは、物を丁寧に扱い、愛着を持って、手入れしながら使うことです。また、「物持ちがいい」というのは、手入れしながら良い状態のまま使い続けることです。悪い状態のまま何年も使い続けていることは意味が違います。それは物を大切に扱っているとはいえません。

そこで、子どもに物の大切さを教える5つの方法がありましたので紹介します。

- 1 物をすぐには買わない
 - ① 無くした場合はまず探す
 - ② 物を無くした時は、なぜ無くしたのかを一緒に考える
 - ③ 壊れた物は修理する

- 2 自分で物を作る
- 3 物をしまう場所を決める
- 4 名前を書く・名前をつける
- 5 親が見本を見せる

自分で頑張って作った物は大切にします。
整理整頓ができると時間短縮にもなります。
自分の物だという意識が深まります。



教育学者のドロシー・ロー・ノルト博士の書籍『子どもが育つ魔法の言葉』によると、親は子どもにとって、人生で最初に出会う、最も影響力のある「手本」とされています。下記のように、親が日頃から物を大切にする姿を見せることで、子どもも「物を大切にすること」を自然と身につけていくと考えられています。



整理整頓

- ・古くなった物もすぐに捨てずに人に譲れないか考えてみる。
- ・壊れた物は修理する。
- ・物が長持ちするように手入れをする。
- ・捨てる前に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝える。

以上のことは、ものづくりを通して、技術・家庭科の教科の中でも学んでいきます。生活に役立つ知識と技能を身につけて義務教育を卒業してくれたらうれしいです。ところで、私の息子には一人暮らしをする際にドライバーセットをプレゼントしました。自分で修理する機会があった時に使うように伝えましたが、いまだに実家の机の上に置いてあります。親の心子知らずとはまさにこの事かと痛感しております。